

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500490		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホーム のんた		
所在地	山口県周南市大字戸田2806-1		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成25年6月24日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人ゆえ、日常の通院から日常の体調の変化、急変時の対応に関してご家族からも安心をいただいているかと思う。また、ターミナルケアにおいても本人やご家族の意思も踏まえてホームと医療とが協力し、出来る限り協力をして、入居者さんを見送れる体制作りに努めている。地域の方々との交流も年間を通して行っている。公文、童謡の会、健康体操や季節行事のボランティア参加、また、行事ごとにご家族に案内をして、家族の方の参加も募っている。のんたの近所の方の協力を得て、災害時の協力員体制を整えており、実際に避難訓練などに参加してもらっている。夜市ののんたと合同で家族会を設置しており、ホームの事や入居者のことなどをご家族と共に考えていけるように努めている。中には家族会が主催の行事も取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方が事業所の協力員として、のんたまつり、花見会、餅つき、門松づくり、利用者と一緒に泊旅行などの事業所行事の協力をされる他、災害時の緊急連絡網に全協力員の名前を記載され、通報があるとすぐにかけつかることができるようしておられ、避難訓練では避難誘導や利用者の見守りなどの役割を担うなど、地域との協力体制を構築されています。童謡の会、公文の計算ドリル、健康体操、フラダンス、日舞、ハンドマッサージなどのボランティアが来訪され、行事にも参加しておられます。のんた祭り、花見会、餅つきには地域住民が参加しておられ、「地域の方々にも認知症のことを理解してもらい、協力を呼びかける」という理念に基づいて、事業所自体が地域の一員として日常的な交流に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症をもたれている方がその人らしく地域の中で生活出来るような理念を考え、管理者・職員がその事を考えながら実施している。	法人の理念を事業所の理念として、全職員で共有して、地域に理解を求める取り組みをするなど、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にお互いに声を掛け合っている。また、災害時の協力員を求めると共に、季節行事などに協力してもらっている。	自治会に加入し、地域の盆踊り、小中学校の運動会などに参加している。童謡の会、公文の計算ドリル、フラダンス、日舞、健康体操、ハンドマッサージなどのボランティアの来訪があり、幼稚園児との交流や小中学生の福祉体験の受け入れをしている。事業所ののんた祭り、花見会、門松作り、餅つき、一泊旅行に地域の人の協力がある他、花や野菜の差し入れもあり、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要時施設の見学や活用、地域との交流の場として、のんた祭を企画している。認知症や高齢者に関する研修会など企画している。AEDの設置施設として玄関の明記してある。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価を考え、外部評価を受けることで、日々のケアや業務などの改善の機会としている。	管理者は評価について説明し、管理者と各ユニットの主任が自己評価に取り組んでいる。運営推進会議メンバーの拡大や法人内研修の充実など、評価を活かして改善に取り組んでいる。	・全職員による自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所が行っている様々な行事や取り組みを報告する機会としている。会議のメンバーの方々にも事業所の行事など参加してもらおう機会を持っていただいている。	民生委員、地域防災女性委員、近隣協力員、他事業所の管理者を新たにメンバーに加え、2ヶ月に1回開催している。行事報告、利用者状況、活動報告、職員の研修状況、外部評価結果について報告し、意見交換している。行事への協力などの提案を、サービス向上に活かしている。	・運営推進会議の内容の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの相談員制を受けている。	担当課に出向いたり、電話で情報交換をしている他、地域包括支援センターとは電話で情報交換をするなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修会や話し合いの場を設け、定期的に理解する機会を持っている。利用者に関しては希望がある場合に鍵をつける場合がある。(プライバシーへの配慮)	年1回の法人研修で学び、全職員は理解し、玄関の施錠を含めて抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者、主任が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を作り、職員全体で理解した上でケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると考える利用者がおられる場合、家族及び関係者と相談し、アドバイス等行っている。ホームは今後必要とされる方が出てきたときのためにより深く制度について理解をしていく必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時においては、機会・時間を必ずもうけ、不安や疑問点の解消に努める。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム相談窓口及び第三者機関の明記を行い、契約時や必要時に明確に伝えるように定めている。	運営推進会議時、家族会時、面会時、電話や年1回の家族等との一泊旅行時に意見や要望を聞いている。ターミナルについて勉強会を開催するなど、家族の意見を反映させている。相談、苦情体制や苦情処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者、その他関係者から苦情が出た場合、定例カンファレンスの機会や、家族会、運営推進会議等にて検討する機会を持つようになっている。ホームは利用者からの苦情の思いを明確に判断、改善に努めるよう取り組んでいる。	月1回のカンファレンス時の他、管理者や主任は日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。入居者の状態よっての勤務体制の変更など、意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し、勤務状況の把握、休日出勤や時間外、ターミナル時の手当など考慮するよう努めている。実習の受け入れなどを通し、職員に対して実習生の手本となるように、それぞれが意識を高め向上心を持つように啓発している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し必要な研修を職員の段階を追って育成を行える体制を整えている。介護の知識、医療の知識に関する研修を施設内外で様々取り入れており、また、研修等で学んだことを職員に伝える機会を持っている。	外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、復命して、資料を閲覧している。山口県宅老所・グループホーム協会の研修会や西部地区学習会、医師会の研修会への参加の機会を提供している。法人研修は年3回実施している他、日々の業務の中で働きながら介護技術や知識などを学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム協会への参加、周南市地区や光、下松地区の学習会などで、情報交換や研修などを行い、なるべく全職員が参加できるような体制を作っている。また医師会のリハビリに関する研修など積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時から利用者の求めている事を聞く機会を作り、ホームに入居した後もなじみの生活が続けていけるよう不安など解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みを受けた時点から入居まで定期的にご家族に連絡をする機会を設け、困っている事や利用者の現状を聞く機会を設けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み者及び利用者のその時の現状も考慮し、適切なサービス利用が受けれるように相談に乗っている。また、緊急性に応じて柔軟な利用案内の連絡を行っている。他グループホームの紹介。同法人内の介護サービスなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の出来る力を考慮し、的確に判断している。その方の生きてきた経緯を把握し、配慮している。また、利用者職員との関係ではなく、家族のような役割に近づけるよう心がけている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の今を理解してもらった上で、できる事や、できない事を共に考え、これまでの暮らしが継続出来るよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、なじみの場所や人との関係が途切れないよう入居者の地区行事などに参加できるように努めている。	友人や知人の来訪、住んでいた地域の盆踊り、フェスタ、八幡様への初詣、自宅周辺のドライブの他、家族の協力を得ての外泊、理美容院の利用、墓参り、法事への参加、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の気持ちを尊重し、利用者同士が支え合えるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去、契約終了後も必要であれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今の思いはどうか、表現できなかった利用者に対して意志表示できていたときの希望や思いを汲み取るよう取り組んでいる。	入居時のアセスメントで生活歴等を把握する他、日々の関わりの中での言葉や行動等をセンター方式のシートに記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後問わずご家族や友人などから聞く機会があれば調べるようにしている。ご家族しか知らないことや友人・近所の人しか知らないことがあることも踏まえて聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の過ごし方と自宅での過ごし方を比べてなるべく利用者のなじんだ生活や、過ごしやすい環境は何なのか判断できるようカンファレンスなどで努める。利用者の生活リズムに合わせた食事時間、入浴時間などに対応している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者と定期的に話し合う機会を設けており、思いを汲みとれるように取り組んでいる。	計画作成者、利用者の担当職員を中心に毎月カンファレンスを実施し、利用者、家族の意向を聞き、主治医、看護師等関係者と話し合い、それぞれの意見を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直す他、家族の要望や利用者の状態に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りと共に利用者の状態の変化や体調面の把握などを行っている。定例カンファレンスの場を活用し、利用者の情報を見直し日々のケアの改善を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相談があったときや必要性が出た場合、関係者・ご家族などに相談をした上で支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(公文・健康体操・中学生のJRC)などに協力して利用者の余暇生活の充実に努めている。また、利用者の興味のあることや地域の方との交流ができるようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をご家族、本人から聞き適切な医療が受け入れられるようにしている。	入居前からのかかりつけ医となっている。家族の協力を得て、利用者の現況を記録した資料を持参して受診の支援をしている。受診結果は情報を共有している。協力医療機関の医療支援や緊急時の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤に看護婦がおり、緊急時にはすぐ来てもらえるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医師及び看護婦と連絡調整を取りながら、早期退院出来るように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やその都度に終末期をどのように迎えるかご家族と話し合い、それに関する確認書を書いて頂いている。	契約時に重度化した場合に事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、できるだけ早い段階から本人、家族、医師、看護師等、関係者と話し合い、方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時はすぐに母体である医院に連絡し、指示を仰ぐようにしている。また今後同じような事故を起こさぬよう指示し、防止に努めるようにしている。	事故等が発生した場合は、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、引継ぎノートに記録し、全職員で検討し、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。AEDの使用訓練や救急救命研修を全職員が受講し、日々のケアの中で医師や看護師から応急手当、初期対応の指導を受け、身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回地域の方に協力頂き、避難訓練を開催している。実際に避難誘導にも取り組んでもらっている。	昼夜想定をした避難訓練、消火通報訓練を地域協力委員と共に実施している。利用者が避難できる方法を職員が身につけるとともに、地域協力委員には避難誘導や見守りの役割りを担ってもらう他、緊急連絡網に地域協力員の名前を明記し、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物や個人ファイルなどは定められた場所に保管し、個人情報が流出しないよう気をつけている。	法人研修でプライバシー保護、個人情報保護について学び、職員は理解をして、一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。情報管理や守秘義務についても徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者目線で関わることにし、なるべく本人が自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人に合ったペースを尊重し、本人がしたいことをなるべく叶えるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみや行きつけの美容院などに行き、入居後もその関わりが保てるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の出来る力を探り、台所仕事などを手伝ってもらっている。	昼食、夕食は法人からの配食を利用し、朝食は差し入れの野菜などを使って事業所でつくっている。利用者は、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。素麺流しなどや季節ごとの行事食、花見に弁当を持参したり、ごまプリン、ホットケーキ、クリスマスケーキなどのおやつづくり、デリバリーの弁当注文、個別の夕食の他、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記録し一人一人の栄養バランスを把握するようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行うようにしている。また夜間は毎日義歯洗浄剤で消毒するようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレにはわかりやすく張り紙がしてあり、希望する方は部屋にポータブルトイレを設置している。	排泄記録表で一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、水分量なども気をつけるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する時間は特に決まりはなく、一人一人の習慣や気分に応じた入浴をしてもらっている。	毎日15時から17時までの間に、利用者の希望にそってゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態によってシャワー浴や足浴、清拭等の対応をしている。入浴したくない人には、声かけやタイミング、職員の交代などの工夫をしている。柚子や入浴剤などで入浴を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活リズムを把握し、ゆっくりと安心して休めるように努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現在服用している薬については、薬剤情報表をファイルに閉じ、常時確認できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者にとっての楽しみは何か、本人やご家族に尋ね、探るようにしている。	買い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、食器洗い、下膳、テーブル拭き、ぬり絵、季節の行事(クリスマス会、敬老会、節分、餅つき、門松作り)、ボランティア(童謡の会、日本舞踊、健康体操、フラダンス、日舞、ハンドマッサージ、公文の計算ドリルなど)との交流、運動会の見学など、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の商店やスーパーに買い物に出かけ、定期的に外出できるように機会している。	散歩、買い物、初詣、大平山や自宅周辺のドライブ、他の事業所のまつり、花見(梅、桜、彼岸花)、一泊旅行(笠戸島ハイツ)、花火大会、ツリー見学、盆踊り見学、小、中学校の運動会の見学など、地域や家族の人々と協力しながら、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を管理している方もおり、職員が金銭の出納をノートに記載するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があった場合、ホームの電話を使用し連絡が取れるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には出来るだけ季節的な物品をそろえるようにしている。またそれぞれに過ごしやすような工夫はするように取り組んでいる。	共用空間は広く、明るく、温度や湿度に配慮している。窓辺に大きなソファや畳のコーナーがあり、中庭の季節の木々や花々が眺めることができる。廊下には利用者が描いた似顔絵や絵画が飾っており、廊下の突き当りにはテーブルや椅子、大きな熊のぬいぐるみが置いてあり、利用者の居場所となっている。台所は対面式で調理の音や匂いがして、浴室、トイレは安全面に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個人個人の好きな場所を把握し、他の利用者とも過ごしやす居場所を作るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に希望があれば畳を持ち込んでもらったり、使い慣れた家具を自宅から持ってきてもらうようにしている。	衣装ケース、三段棚、鏡台、観葉植物、カレンダー、のれん、ゴミ箱、家族の写真など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に段差はなく手すり、エレベーターが完備してある。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームのんた

作成日: 平成 25年 6月 24日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	○運営推進会議を活かした取り組みにおいて会議内容のより充実を図る必要がある。	昨年度の達成計画において運営推進会議の内容の職員周知の把握は行ってきた。また、講師メンバーの増員も図り会議内容についても充実されてきているが、ホーム活動や地域貢献などの部分をより、会議の中に取り入れていく必要がある。	会議の中で構成委員の方々の報告や、お知らせなどを具体的に活用するとともにホームに関わってもらえる機会を運営推進会議から発信していく。テーマによっては他の地域活動をされている方にも参加の呼びかけを行っていく。	1年間
2	4	○評価の意義の理解と活用において自己評価作成後の職員に対する報告を機会として設けていなかった。	評価結果に関しては職員に周知の機会を設けていたが、ホームでまとめた結果に関して深く検討していく機会を設ける。	事前に自己評価に意義を改めて説明し、それぞれに自己評価を行っていく。また、管理者、主任でまとめた結果に対して改めて職員への周知を行っていく。新規入職職員に関しては入職時に自己評価、外部評価の意義を理解してもらい堅実に取り組んでもらう。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。